

- 1 学校教育目標 心豊かに、たくましく生きる子の育成
- 2 教育方針 子どもの成長が見え、応援される学校づくり
～「心が育つ、学力が伸びる、体力がつく」積極的な指導～
- 3 学校づくりの基本理念 【みんなで輝き、人が育つ学校】の推進
 - ・学校は、子どもたちにとって「学んだことが身につく場」である
 - ・学校は、子どもたちにとって「人としての生き方を学ぶ場」である
 - ・学校は、地域の中にあって「家庭や地域と連携して子どもたちを育てる場」である
- 4 めざす児童像
 - ・明るくたくましい子 (思いやりの心を持ち、あたり前のことがあたり前に行動ができる子)
 - ・よく考えやりとげる子 (学習規律を大切にし、聴いて考え、伝え合い、根気強く取り組む子)
 - ・協力し進んでやる子 (みんなのために、自分から、積極的に活動する子)
- 5 めざす教師像
 - ・子どもの成長に喜びを感じ、率先垂範により範を示す教師
 - ・責任と使命感を持ち、教育指導力向上をめざし、学び合い、高め合う教師
 - ・活力ある組織に参画し、取組の徹底と継続を行う教師
 - ・教育公務員として自覚ある言動を行い、地域や保護者に信頼される教師
 - ・教員育成指標に沿った各ステージに応じた資質・能力を高める教師
- 6 学校の現状と課題
 - ①学びの姿勢について
 - ・学習規律や約束を守り、落ち着いた学習の取組を継続してほしい。受容・思考・発信を大切にしたい、学び合いの力を育てていきたい。
 - ・家庭学習の重要性を理解させ、予習・復習を充実し、時間の達成度や内容の向上をめざす。
 - ②豊かな心の育ちについて
 - ・異学年集団活動を充実させ、関わり合いの機会や自己有用感を味わう活躍の場を与えたい。
 - ・思いやり、希望・勇気・努力、ふるさとを愛する心を育て、これからの生き方づくりにつながる道徳教育、温かい関わり合いを育む人権教育を推進していきたい。
 - ③健康・体力について
 - ・体力調査の結果から運動能力の向上は著しい。ただ、柔軟性を高めることが課題となった。スポチャレいしかわの種目も体育の授業に関連づけて行い、基礎体力を高めていきたい。
 - ・災害の避難訓練、不審者対応、引き渡しの指導や実践を通し、安全意識を向上を図りたい。
 - ④教育指導・組織について
 - ・授業改善、ICT機器、補充学習、環境整備、心の教育を充実させ、学力向上につなげたい。
 - ・学校経営ビジョン実現に向け、各主任が進捗状況を把握し、指導助言による取組の徹底と継承を図るために「重ねて繋ぐ」を合言葉に組織的な運営を行いたい。
 - ・検証から取組の改善(合理化・効率化)・企画・提案し、学校運営に積極的に参画してほしい。
 - ⑤開かれた学校について
 - ・積極的な情報発信(学校・学年通信の発行、学校ホームページの更新、年間を通じた学校公開)を行い、保護者や地域の方に教育活動を応援する意識を高めていきたい。
 - ・地域の人材を活用して、体験行事や道徳授業の充実を図りたい。見守り隊の充実を目指したい。
- 7 今年度の学校経営重点目標
 - ①授業改善と学力向上
 - ②豊かな心と社会性の育成
 - ③健やかな体と危機管理の育成
 - ④教育指導力と組織力の向上
 - ⑤開かれた学校づくりの推進と連携

8 重点目標達成のための具体的取組

①授業改善と学力向上

- ・「いしかわ学びの指針12か条+」に基づいた授業・基盤・体制づくりに努める。
- ・学習指導要領実施に向けて、主体的対話的で深い学びの授業改善を行う。
- ・教育委員会指導主事等の要請訪問やサポート研修を積極的に活用し、指導力向上を目指す。
- ・勉強がわかる楽しさを実感させ、自分の考えをもち、つなげて話す力の育成を図る。
- ・児童の実態に応じた指導の工夫を通し、学習意欲の向上を図り、学んだことの定着させる。
- ・ICT機器を活用した授業実践やプログラミング教育の推進を図る。
- ・児童の困り感を把握し、個に応じたきめ細かな対応を工夫し、特別支援教育を充実していく。
- ・聞く・話す・読む・書くなど表現力を高める場を設定し、言語活動の充実を図る。
- ・学力調査から学習到達状況を把握し、計画的・継続的な指導をする。
- ・学習ルールの確認や徹底、家庭学習の習慣化を図り、学習習慣を定着する。

②豊かな心と社会性の育成

- ・道徳教育や人権教育の充実を図り、思いやり、希望・勇気・努力、ふるさとを愛する心と関わり合いの心の心を育て、これからの生き方づくりにつなげる。
- ・あたり前のことがあたり前にできるなど、積極的な行動を促進する。
- ・あいさつ、服装、下足揃えなど基本的行動様式を確立し、褒めの価値付けで心を育てる。
- ・児童会活動や各種行事などで活躍の場を設定し、自己肯定感や自己有用感を高め、学校活動への参画意識と愛校心を育てる。
- ・異学年交流で思いやりや協力する態度を育て「みんなで輝き、人が育つ学校」を推進する。
- ・特別支援教育において、児童理解と指導方針の共通化を図ると共に、関係機関と連携し、自己肯定感を高め、自信を持って学校生活を送れるよう支援する。

③健やかな体と危機管理の育成

- ・体育などのスポーツ活動を通して、健康な体と集団としての規律を育成する。
- ・体力向上プランや運動能力調査から、年間を通した取組を行い、体力向上を図る。
- ・活動の方向性を示し、適度な競争意識を与え、賞賛や評価を行い、向上意欲をかき立てる。
- ・健康調査を行い、早寝・早起き・朝食摂取など基本的な生活習慣の定着を図る。
- ・防災教育や避難訓練を通じ、児童の危機予測・事故回避能力を育成し、防災意識を高める。
- ・児童理解、生徒指導、健康安全教育、食教育を充実し、安全・安心・快適な学びの場とする。
- ・積極的生徒指導を行い、いじめはどんな理由があっても許されないという学校づくりを進める。
- ・危機に対する事前の準備、発生時の初期対応、早期解決を組織で適切に図っていく。

④教育指導力と組織力の向上

- ・教育公務員としての自覚と責任を持ち、範となるふるまいや率先垂範に心がける。
- ・学校全体での取組の共通理解をし、実践の徹底と継続を行い、組織的な学校運営を図る。
- ・各種会議や委員会・部会を計画的に開催し、校風の継承改善を図り、組織を活性化する。
- ・危機管理意識を持ち、迅速な報告・連絡・相談を行い、解決に向けた組織的対応を行う。
- ・教職員それぞれが持つ強みを発揮し、組織の一員としての参画意識を高める。
- ・OJTやメンターの意識を持ち、互いに学び、高め合い、学習指導力や生徒指導力などをつける。
- ・校務の合理化や効率化を工夫し、業務改善を行い、働き方改革を推進する。

⑤開かれた学校づくりの推進と連携

- ・各種情報の積極的な発信、年間を通した学校公開、地域の人材活用を行い、家庭や地域が、子どもたちを通いわたくなる開かれた学校づくりを進める。
- ・地域の伝統文化や伝統文化、里山里海の豊かな自然を生かした教育活動を行う。
- ・基本的生活習慣の定着、家庭学習の充実、通信機器の使用などに理解と協力を求める。
- ・学校と家庭が、素早い連絡や相談を誠実・親身に行い、安心感を与え、信頼関係を築く。
- ・学校評価や各種外部委員の指導助言を学校運営に反映し、教育の質的向上を図る。
- ・幼保小中や小小との情報・行動連携、公民館や地域との交流を通し、教育のつながりを広げる。